平成11年11月 広報 Vol.550

さめうみ

11

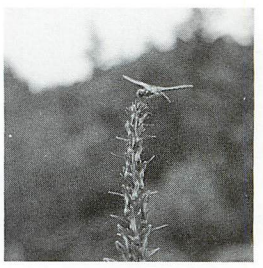
1999 November



特集

もっと地域が好きになる。

この地域を語るとき、過疎、少子化、高齢化など、暗い部分ばかりが先行しがちです。しかし、そのような面ばかりをクローズアップしても、村づくりの糸口は見いだせません。逆に、この地域の良さを知り、それを生かしていくことも大切ではないでしょうか。皆さんは、どのようなところに鮫川村の良さを感じますか。改めて考えてみると、意外と気づかないことがあるかもしれません。そこで今回は、さまざまな角度から鮫川村の魅力に迫ってみます。この地域の良さを再認識し、自信と誇りを持って暮らしていけるように…。そんな願いを込めて、特集「もっと地域が好きになる。」をお届けします。



CONTENTS

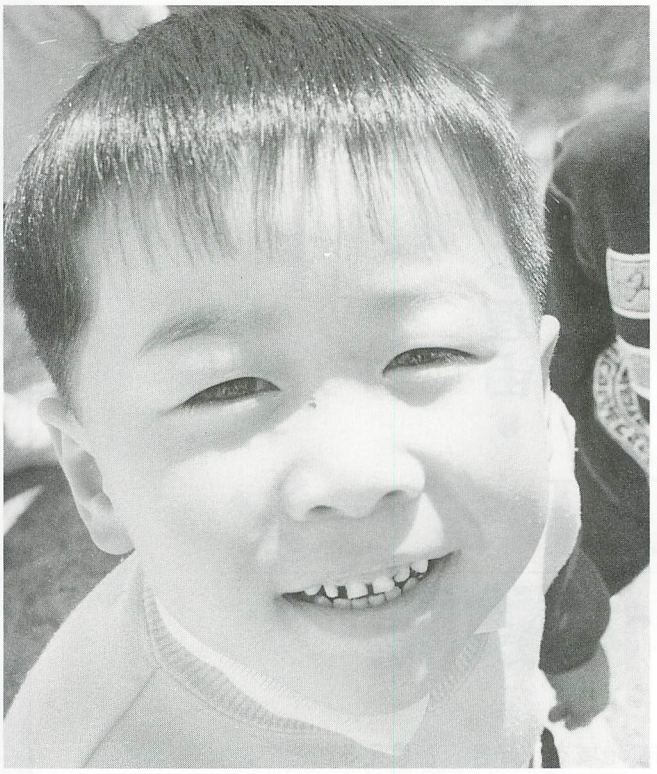
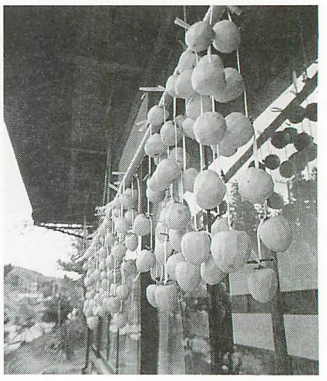
特集「もっと地域が好きになる。」……2～17

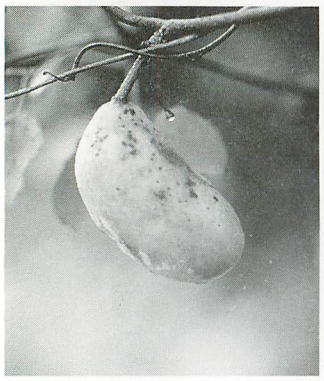
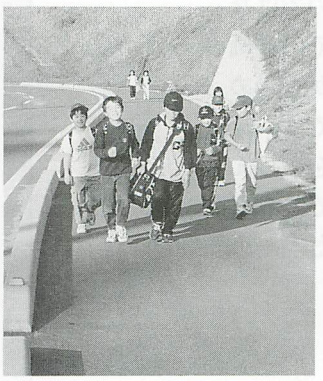
第1部／地域で暮らす「この村が好きだから…。」……4～7
UJIターン体験記

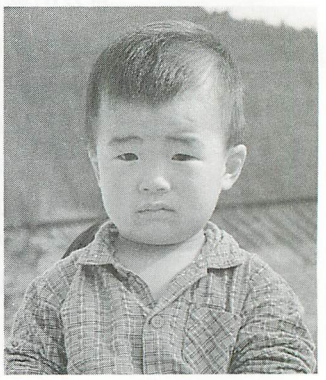
第2部／地域を見直す「魅力いっぱい鮫川村」……8～13
Part 1 都市との交流で鮫川村の良さを知る
Part 2 山村留学施設「竹飛歩学園」と鮫川村
Part 3 記者から見た鮫川村

第3部／地域をおこす「今、地域づくりに夢中です。」…14～17
地域づくりグループ紹介








第1部
地域で暮らす

この村が好きだから…。

特集
もっと地域が好きになる。

今、ここに私が住んでいる理由（わけ）

UJIターン体験記

自分が住む地域を「好き」と思えることで、日々の暮らしが一層楽しいものになるのではないだろうか。でも、人それぞれに持っている価値観は違う。そんな中で、この村に何かを求めて移り住む人たちも少なくない。ここでは、この村にこだわりを持ち、日々の暮らしを楽しんでいる人たちを紹介する。自分にとっての本当の暮らしやすさ、新たな価値観を見いだすためのヒントになることを願って…。



都会には少ない地域の付き合いを楽しんでいます。

藤田勝美さん　大字赤坂西野字茅在住

「こんにちは」。藤田さん宅の玄関を開けると、奥の方から次々と家族が集まり、快く取材に応じてくれた。

藤田勝美さん（33歳）は鮫川中学校を卒業後、建築関係の専門学校で学び、東京都内の鉄筋建築を主に扱う建築会社へと就職。そこで三年間勤務したあと、職人大工を目指し八年間修業した。その間、実家の跡取りの話がきっかけでUターンを考え始めたという。「将来的な親のこと、子どものこと、自分自身のことを考え、生まれ育った鮫川村で暮らしていこうと決心しました」。

そして、平成六年五月にUターン。現在は、注文住宅を請け負う職人大工として働きながら、妻と二人の子ども、両親、祖父母と、八人の大家族でにぎやかに暮らしている。

「しばらく村を離れていたので戻るときは不安もありました」と勝美さん。しかし、地元西野青年会や消防団、体育協会などの活動に積極的に参加しながら、たちまち地域に溶け込んでいった。「今では、都会には少ない地域の付き合いを楽しんでいます」。勝美さんは、休日は家族と過ごすことが多いが、地域の会合などには必ず出席する。人とのかかわりを大切にしているのだ。また、それが鮫川村の魅力だという。「十一年間都会で暮らしていましたが、離れてみて初めて鮫川村の良さが分かりました」。



家族８人でにぎやかに暮らす勝美さん



勝美さんが手がけている住宅の建築現場で

「村の第一印象は『自然がいっぱい』でした」と話すのは、勝美さんの妻・圭子さん。圭子さんは、生まれも育ちも東京だ。勝美さんが東京で働いているころに知り合い、結婚と同時に鮫川村へ。二児の母となった今、「この環境の中で元気に成長してほしいですね」と話す。そして勝美さんも、「豊かな自然の中で子どもたちと遊んでいると、環境の素晴らしさに改めてこの村に戻ってきてよかったと思います」。

子育て真っ最中の二人。「できれば、この自然を生かしながら、小さな子どもを安心して遊ばせることができる公園がほしいですね」。

自然の中で子どもたちと触れ合いたい。それがきっかけでした。

戸室　優さん　一家

大字富田字二反田在住

戸室優さん（49歳）は東京都葛飾区柴又の出身。駅からわずか二分という、人もうらやむような環境で暮らしていた。

しかし、「時間を気にせず電車に乗れ、欲しいものがいつでも買える都会生活。大人にとってはこの上なく便利だ。でも…、子どもたちは本当に幸せなのだろうか」。そんな疑問が優さんの中で大きくなっていった。「交通量が多く、外で思いっきり遊ぶなんてとても無理、事件や事故も多く、親としても常に不安でした」と、妻の真理子さんも同じ気持ちだった。

優さんは、仕事の関係で全国各地を回っているうちに、田舎の生活にひかれていった。そんなとき、大分の田舎町に住む友人と会う機会があり、その友人が築いている親子関係に心が動いたという。「親と子が自然の中でとことん触れ合う。そんな〝都会にない親子関係〟がうらやましかった」と振り返る。それがきっかけで「田舎暮らし」を本気で考え始めた。

思い立ったらすぐ行動。優さんは、移住の候補地に福島県を選び、すぐに県庁へ電話。自分の希望を満たす地域として二カ所を紹介された。そのうちの一つが鮫川村だった。鮫川村が気に入った戸室さん夫妻は家の建築を決意。平成四年五月に待ちに待った家が完成した。それからは月に二回程度、東京から鮫川村に通う「週末田舎暮らし」を始めた。とりあえず様子を見るためだ。そして、平成九年四月、戸室さん一家は鮫川村民となった。

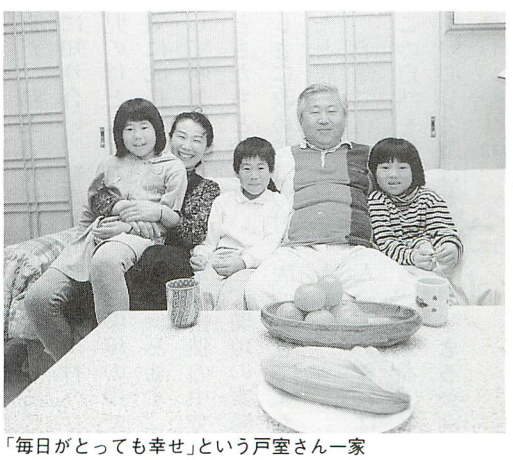


自宅前の畑には何種類もの野菜が。家族みんなで収穫の喜びを味わう

「四季のある幸せを感じています」と話す戸室さん夫妻。若葉、紅葉、霜柱など、季節の移ろいを楽しんでいる。夜は満天の星を、冬は雪景色を楽しむために、家族みんなで露天風呂をつくってしまったほどだ。また、自宅前にある約二アールの畑を借りて、たくさんの野菜を作り、採れたての味を満喫している。「地元の人には当たり前だと思っていることが、私たちにはぜいたくなんです」。

今、戸室さん夫妻が望んでいた生活が現実のものとなった。子どもたちと密度濃く過ごす時間が増えたこと。みんなで畑仕事をしたり、山で遊んだり、以前では手に入らなかったものが普通にある。

「いろんな人たちのお世話になり、今ここに住んでいる。何にも代えがたいものを手に入れたという感じです」。満足げに話すその言葉がとても印象的だった。



「毎日がとっても幸せ」という戸室さん一家

念願かない移住。人の温かさに、感謝の日々を送ってます。

高田三喜雄さん・美枝子さん夫妻　大字赤坂中野字東前田在住

「最初の印象って大事ですよね」と話すのは、高田三喜雄さん（45歳）・美枝子さん（44歳）夫妻。

高田さん夫妻は、二年前の平成九年十一月に移住してきたが、実は十年ほど前に一度、田舎暮らしの情報を得るため鮫川村を訪れている。「そのときの村の印象がとても良くて、案内してくれた役場の方も親切だったので、鮫川村をずっと思い続けていたんです」。

三喜雄さんは宮城県仙台市、美枝子さんは県内の田村郡小野町で生まれ育った。埼玉で約二十年間暮らしたあと、二女の卒業と同時に福島県内に転居。

鮫川村への移住を決意するきっかけとなったのは、美枝子さんが高校時代の同級会に出席したときのこと。なんと同級生の中に、鮫川村に嫁いで暮らしているという人がいたのだ。大字渡瀬字福原在住の蛭田久美子さんだ。そこで鮫川村の話題で盛り上がり、移住に対する思いが強くなったという。それからは、とんとん拍子に事が進み、念願かなっての移住となった。

これまで、田尻地内に家を借りて住んでいたが、永住を決意し家を新築、今年十月に引っ越した。高田さん夫妻は「山」が大好きだという。「埼玉に住んでいるころも、自然を求めて毎週のようにキャンプや山の散策に出かけていたんです」。今では、見渡す限り大好きな山に囲まれている。「鮫川に来てからイライラしなくなったし、夜はぐっすり眠れるんです。これも自然の効果かな」と笑う。



高田さんの家には、村の人たちをはじめ多くの人が訪れる。この日は、埼玉に住む友人夫妻(左)、二女と孫(右)が訪れていた



「村の人の親切さがうれしい」という高田さん夫妻

そんな二人に鮫川村の良さを聞いてみた。「近所の人が山菜を届けてくれたり、朝早くからトラクターで庭を整地してくれたりと、よそから来た私たちを気にかけてくれて、みんな気さくでとても親切なんです。そういうことがわずらわしいと思う人もいるかもしれませんが、私たちにとってはそれがうれしいんです」。人の温かさに感謝の毎日だという。

そして、「何もないのが魅力。何もないからこそいいんです」と、さりげなく話してくれた。



第2部
地域を見直す

魅力いっぱい鮫川村

特集
もっと地域が好きになる。

Part 1

都市との交流で鮫川村の良さを知る

都市との交流事業から見えてきたものがある。交流施設所長に聞く。

今、なぜ郷土食？

村交流施設「ほっとはうす・さめがわ」を訪れる観光客は年々増えています。その中でも農業体験や郷土食作り、自然体験などを通して、村の人たちとの交流を望む利用客が増えています。今回は、交流を通して感じられる最近の特徴について述べたいと思います。

まず、食べ物についてですが、都市部の利用客に食べていただく料理は、村内で採れる旬の山菜、野菜の料理や村内の名人と呼ばれる人が作る手作り加工品などの郷土食です。材料は新鮮で安心して食べられる無農薬か低農薬のものを使用しています。米も同じです。これが年配の人だけでなく若者にも好評なのです。「飽食の時代」と言われている今、なぜ郷土食なのでしょうか。

交流の中で、いつも食べ物の話題が出ます。「最近、スーパーには外国産の野菜がたくさん並んでいるが、果たしてどんな作り方をしているのか不安なので、あまり買わないようにしている」という人が多いのが特徴です。食べ物や健康への関心も非常に高くなっています。

「医食同源」という言葉があり、最近は「良質で安全」なものを選ぶ傾向に変化してきています。バランスが良く、食物繊維を多く含む郷土食は、特に女性に喜ばれることが多いのです。また、一つの例として、現代の若者は「あんころもち」など食べないと言われますが、「ほっとはうす」の「あんころもち」は歓声を上げて食べてくれます。地元産の小豆を使った「あん」は甘さを控えめにしていますが、小豆の風味とさっぱりした舌ざわりは、現代の若者をもとりこにしてしまいます。「本物」を食べていないところからくる「食わず嫌い」だと思います。そして、もちをつく前の蒸した米を「おいしい」を連発してパクパク食べま



交流施設「ほっとはうす・さめがわ」は都市との交流事業の拠点。手前は体験館

交流事業参加者からのお便り

心のふるさと鮫川村

次に紹介するのは、都市との交流事業参加者から寄せられたお便りです。以前にも「広報さめがわ」で取り上げたことがありますが、鮫川村の良さを再認識するため、改めてここに紹介します。

＊

東京での生活はとても便利で刺激もたくさんあります。でも、なんだか殺伐としていて騒々しくてにぎやかなのに、さみしくなったり、イライラしたり、そういう場所で忙しい毎日を過ごしている私には、時々自分の心が萎縮し、素直な自分を見失うことがあります。

鮫川村を訪れ、空気のにおい、田や木々の緑、道端に咲くたくさんの小花、初めて見たホタルの光、ホタルを手のひらにのせたときのなんともいえない感動、雲から顔を出した月の明るさ、せせらぎの音、かえる、うぐいすの鳴き声、水の中に手を入れるとしびれるくらいひんやりとする冷たさ。手を加えない自然の中で、私の心が少しずつ洗われていき、ホッと温かい気持ちになりました。

新鮮な野菜のおいしさに、ついついつまみ食いの連続でした。普段、農薬づけの野菜やこんにゃくを食べている私は、最初にそれらを口にしたとき、「これが本当にこんにゃくなの。なんか違うぞ」という驚きでした。東京へ戻った次の日の朝食で、東京で買ったトマトときゅうりを何もつけずに食べ、味も舌ざわりも違い「おいしくない」とまた驚きました。

村の方たちと一緒に作った夕食も楽しく、皆さん気さくないい人ばかりで感激しました。初めて食べる料理がたくさん並べられ、田舎料理は飾り気はないけれど素朴で、何度もおかずを取りにいくほどおいしかったです。きっと大食な女性だなと思った方もいることでしょう。

夕食後、ハーモニカと一緒に大妻のみんなと歌をうたったとき、みんなの気持ちが一つになった気がして、また、田舎に住んでいた亡き祖父母の優しくて温かい人柄を思い出し、胸がいっぱいになり思わず涙がこぼれました。

鮫川村は心のふるさとです。私が忘れかけていた心の豊かさ、温かさがたくさんある村です。鮫川村で感じたにおい、音、見たもの、さわったもの、そして感動したたくさんの気持ちを、いつも心に持ち続けていきたいと思います。

いつか子どもができたら、鮫川村に連れて行き、本当の自然、優しさを知ってもらいたいです。鮫川村の自然を、どうかこわさずにいつまでも大切に残してください。

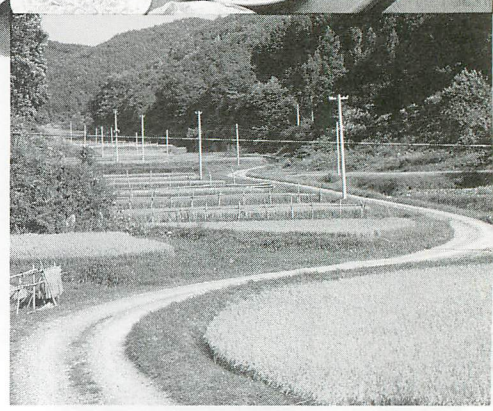
本当に充実した日をありがとうございました。心からお礼申し上げます。

大妻女子大学　野久保真理



都市住民に好評の食文化交流会。郷土料理が人気を集める


農業体験をする交流事業参加者


村内には里山の景観が残っている

す。「都市住民にとっては日常では味わえないぜいたくな味」とよく言われます。私たちには当たり前のことですが、これが今「ぜいたく」になっているのです。

高まる自然志向

次に自然環境について触れてみます。本村は標高三百五十㍍から七百㍍に広がる村です。集落は里山に囲まれ、四季折々にその表情を変え、私たちを温かく包み込んでくれます。「ほっとはうす」を訪れる人たちは、里山の魅力にもひかれてやってきます。山野草や木々の変化を楽しみに散策する人、山菜や木の実などの採取を楽しむ人、ホタルをはじめ多くの昆虫や鳥に出会えるのを楽しみに来る人などさまざまです。このような「自然志向」は年々高まるばかりです。

里山に対する国民の関心は高まっており、里山の環境を守ることの大切さが盛んに指摘されています。「ほっとはうす」には、大学生などが環境保全のための草刈り作業に、また、わが国を代表する著名な学者も研究のために訪れます。しかし、田畑の耕作放棄地が増え、里山の環境は年々悪化しています。姿を消してしまった山野草や昆虫も何種類かあります。

二十一世紀は「食糧と環境の時代」だと言われています。食糧の不足と環境の悪化を地球的規模でどう打開していくかが問われています。農林業の振興を「良質で安全な食糧の生産」に視点を定め、農家の生産意欲が高められる施策が求められています。それが、鮫川村の個性を高め、住んでいる人はもちろん、訪れる人にも魅力を感じさせる地域の創造につながることだと思います。

文／交流施設「ほっとはうす・さめがわ」
所長　鈴木　治男

Part 2

山村留学施設「竹飛歩学園」と鮫川村

地球に抱かれて子どもたちは…。

山村留学施設「竹飛歩（たけとんぼ）学園」は、昭和六十三年四月に開設以来、今年で十二年目を迎えた。現在は、首都圏を中心に全国各地から二十一人の子どもたちが入園し、共同生活をしながら村内の小・中・高校に通っている。これまで、百七十人の子どもたちが、大自然に囲まれた学園での生活を経験している。

鮫川村の環境は、果たして子どもたちにどのような影響を与えているのだろうか。竹飛歩学園開設者である小森洋一さん（47歳）と清水国明さん（42歳）を訪ね、話を伺った。

＊

――十二年前、学園を開設するに当たり、最初に鮫川村を訪れたとき、どのような印象を受けましたか。

清水　私が初めて訪れたのは秋でした。紅葉がとてもきれいで、この村に「一目惚れ」という感じでしたね。

小森　私は冬の寒いときでしたが、夜空には今にも降ってきそうなほどの星が一面に広がっていて「こんな星空見たことない」と感動しましたね。

――どのようなところに、この地域の良さを感じますか。

清水　友人などには「田舎の付き合いはわずらわしいでしょう」とよく言われるんですよ。でも、人間関係が親密で地域力がある。地域で子どもを育てる、地域の目に守られているという雰囲気があり、私にはそれが魅力ですね。

小森　そうですね。子どもを育てるには安心ですね。他人であっても気楽に悩みを相談できる。親だけで悩む必要がない。つまり、孤立しないで子どもを育てられる環境であるということです。

それから、村の人たちが私たちを快く受け入れてくれたということ。人間関係がよくなければ、十二年もの間続けてこられなかったと思います。

清水　そうですね。地域の人たちが温かい目で見てくれているということに感謝しています。

――鮫川村の環境は、子どもたちにどの



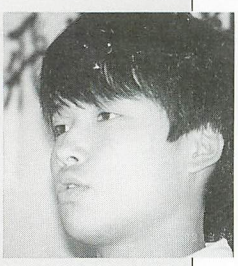
休日には農作業も体験する



学園を開設した小森洋一さん（左）と清水国明さん（右）

思い出は今も…。

竹飛歩学園卒園者が語る鮫川村への思い



鮫川村に出会えたこと、とてもうれしく思います。

千條善輝さん
東京都新宿区在住・19歳
（平成11年３月卒園）

私は６年間の竹飛歩学園での生活を３月に終え、４月から東京で生活していますが、いつも鮫川村での生活を思い出します。

鮫川村は、トイレに入っていても小鳥の声、カエルの声、牛の声が聞こえます。それだけ平和で、とても安心でき、村の人はみんな親切で、居心地がいい村でした。

東京で新しくできた友達には、必ず鮫川村のこと、そして学園のことを自慢します。村のいいところも話せば、不便な面も話します。でも「その不便さが逆に便利になったら鮫川村のいいところがなくなってしまう」と付け加えます。友達は熱心に私の話に耳を傾けてくれます。しかし、東京では考えられない生活の不便さに対して、決して批判の声はあがりません。もしかしたら東京の人たちは、そのような生活を心のどこかで望んでいるのかもしれません。

鮫川村は、村の人の素晴らしい笑顔、親切な対応と、どこをとっても日本一でした。竹飛歩学園を通して鮫川村に出会えたこと、とてもうれしく思っています。



二児の母親となった今、「子どもにも…」と思う。

宮寺真樹子さん
埼玉県大宮市在住・26歳
（平成４年３月卒園）

私は、中学３年生から高校３年生までの４年間を鮫川村で過ごしました。

当時の生活を振り返ってみると、いろいろな楽しいことがありました。もちろん苦しかったこと、つらかったこともたくさんありましたが、鮫川村の人たちの温かさに触れ、大自然の素晴らしさ、東北ならではの冬の厳しさなど、いろいろなことを知ることができ、都会では味わうことのできない、とても貴重な体験ができました。

先日、高校時代の友人の結婚式に招かれ、何年かぶりに鮫川村を訪れました。そのとき、なぜか安堵感を覚え、不思議とほっとして、家事や育児に追われている毎日の生活の中でずいぶんと忘れていた何かを思い出したような気がしました。

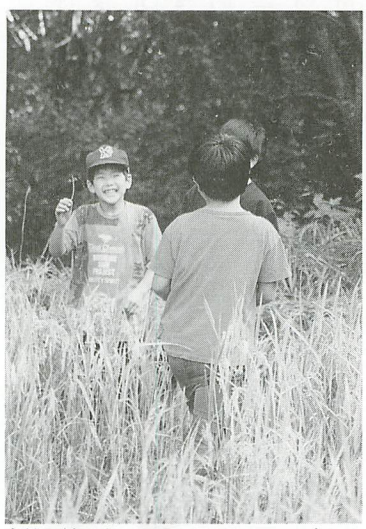
二児の母親となった今、親の立場として、自分の子どもにもこういった体験を少しでもさせてあげたいと考えています。そして、自分なりに何かを感じてもらえたらと思っています。



学園の子どもたち。共同生活をしながら村内の学校へ通う



園舎は廃校となった鮫川小学校戸草分校を利用している



自然と触れ合いながら子どもたちは多くのことを学んでいる

ような影響を与えていますか。

小森　一つの例をあげてみます。子どもたちはなぜか穴を掘りたがるんですよ。人間の本能なのでしょうか。そういうことが許される環境なんですよ、この地域は。これは都会の環境ではなかなかできません。自然の中で無邪気に遊ぶ姿を見ると、「やっぱり子どもなんだなあ」と思いますね。人間本来の本能を引き出すことは大変重要なことだと思います。本能を抑圧されてしまうと、ゆがんだ形で出てしまいます。鮫川村の環境は、地球に抱かれているという感じで、子どもたちは安心を覚えるのだと思います。

清水　自然の影響力というのは大きいものがありますね。子どもたちは、大人が想像しないものを作ってしまうんです。ゲームセンターや遊具などは「子どもが喜ぶだろうなあ」と計算されて作られています。しかし、そういうものを与えられないと、子どもたちは自らいろんなものを生み出すんです。創造する力が養われるんですね。

――鮫川村が、学園の子どもたちにとって「ふるさと」になることを願っています。本日はありがとうございました。

Part 3

記者から見た鮫川村

マスコミは鮫川村をどう評価しているのか。２人の新聞記者が語る。

みんな一生懸命だから、「これでいいのだ！」



福島民報社棚倉支局
菅野龍太 支局長

かんの・りゅうた／昭和43年、伊達郡霊山町生まれ。平成９年４月から棚倉支局長として勤務。

鮫川村には、おもしろい人がたくさんいます。例えば、西野地区には関根政雄さんという「タヌキおやじ」が住んでいます。関根さんにわが社の「民報サロン」の原稿を書いていただいたとき、自分の師匠をタヌキおやじとして紹介し、読者の涙を誘いました。しかし、本人も五十歳の声を前に、今では立派なタヌキおやじです。その風貌からはちょっと想像できませんが、タヌキおやじはオオムラサキというチョウチョが好きです。好きが高じて、何と「県の未来博で二千匹を放す」とぶち上げました。タヌキおやじは、県民の度肝を抜くタヌキおやじです。

かと思えば、西山地区戸倉には関根昭二さんという変なおじさんがいます。この変なおじさんは、自らを「山村貴族」と称し、鉄瓶で沸かしたコーヒーを優雅に飲みながら、福寿草を愛でる変なおじさんです。しかし、この変なおじさんは、これまた立派なのです。県のお金で見事な水車小屋と魚道を地元に造ってしまったのです。見上げた変なおじさんです。

そういう私が、鮫川村で一番好きな取材は、村主催の畜産共進会です。これは嘘ではありません。畜産農家の皆さんの表情が好きなのです。地道に生きている。それが表情ににじみ出ていて、なぜかとてもうれしくなるのです。新聞に出ることの少ない農家の皆さんを取材できることは、実は大変うれしいことなのです。

例えば、地域おこしに情熱をかける二人の関根さん。例えば、厳しい時代を必死に生き抜く畜産農家の皆さん。いろんな人がいて鮫川村は素晴らしい。みんな一生懸命だから…。

なぜ、鮫川村を「元気のない過疎の村」というのか。「嘘をつけ」と私は言いたい。鮫川村は今のままでいい。赤塚不二夫風に言えば、「これでいいのだ」。

特集

もっと地域が好きになる。



福島民友新聞社棚倉支局

藤田真司 支局長

ふじた・しんじ／昭和37年、福島市生まれ。平成10年４月から棚倉支局長として勤務。

残したい「里山の自然」キーワードは「水」

私が棚倉支局に赴任したのが昨年四月、鮫川村を含む東白川四町村の担当として仕事を始めて一年八カ月になります。

赴任するまで東白川郡に足を踏み入れたことはなく、ほとんど予備知識はなし。鮫川村についても「鮫川石が有名かな」と考えたぐらい（これはすぐに間違いだと分かりました）の程度でした。そのような人間からですが、取材を通して感じた鮫川村の印象などを述べてみたいと思います。

まずは「おもしろい人（グループ）が多い」ということ。遠ケ竜若衆会、夢楽会議21、戸倉の里づくり寄り合いなど、村全体やそれぞれの地域で活発に活動を続けているグループがいくつもあります。十団体以上が動いているというのは、ほかにはないこの村の自慢だと思います。

自然環境の面では「里山の自然」が残されていること。水田と雑木林、小川などが一つになって作られる里山の環境は今、大変重要なものだと思います。しかし、このところ農家の後継者難などから休耕田が増え、杉や雑木の林も手入れが行き届かなくなっているのも事実。これから復活させる手立てを考えたいものです。

また、鮫川村は東は鮫川、西は久慈川水系の源となっている分水嶺。それだけにキーワードはやはり「水」ではないでしょうか。以前に、ある村の人と「田んぼの用水路の水でトマトを洗って食べられるようになればいいね」と話したことがありました。今の鮫川の流れはそれからは少し遠い。しかし、その水環境を実現する土台はこの村にあると思う。水が良くなることは、農業が栄えることにつながると思います。

第3部
地域をおこす

今、地域づくりに夢中です。

特集
もっと地域が好きになる。

未来を担う子どもたちの舞台づくり

■戸倉の里づくり寄り合い

心やすらぐ戸倉の里に

戸倉の里にはさまざまな山野草が咲き競い、道ゆく人々の心を和ませてくれる。そんな山里の集落に、地域ぐるみで里づくりに励んでいるグループがある。「戸倉の里づくり寄り合い」（関根乙夫代表）。大字西山字戸倉、発地岡、鬼越集落の十七世帯が加入し、全住民がメンバーとなっている。村内では、地域づくりの草分け的な存在だ。

寄り合いの活動がスタートしたのは平成元年。「この地域の美しい自然環境を守ることで、訪れる人たちにやすらぎを与え、心を豊かにしてあげたい。また、この地を離れた人たちが帰ってきたとき、『やっぱりふるさとはいいなあ』と思ってくれるような里にしたい」。そんな思いが結実したのだ。

活動は実に精力的だ。春の福寿草まつりに始まり、来る来る水車山吹まつり、エノキの植樹、国蝶オオムラサキやホタル観察会、お盆の一大イベントである魚つかみどり大会、紅葉狩り、小正月行事の「かっくれい」など、年間を通してさまざまな活動を行っている

このうち、寄り合いの若手メンバーが中心となって開催する「魚つかみどり大会」は、約五百人の来場者でにぎわう人気イベントに成長した。運営方法にも特色がある。お盆で帰省する地元出身の人にも実行委員として参加してもらうのだ。お客様ではなく、イベントの当事者として参加してもらうことに意義があり、それが成功の秘けつだという。

「おばちゃんの味」を求めて

女性メンバー（以下「おばちゃん」と呼ばせてもらう）たちの活動も積極的だ。山野草の手入れや産品の開発などに余念がない。各種イベントには、おばちゃん手作りの「里漬け」や「さしみこんにゃく」などが並ぶ。「ふるさとの味」「おばちゃんの味」を求めて訪れる人たちも


新たな名所となった「来る来る水車小屋」

少なくない。素朴ではあるが何とも言えない味があるのだ。おばちゃんたちは、お互いの味を批評し合いながら、よりよいものを提供しようと張り切っている。

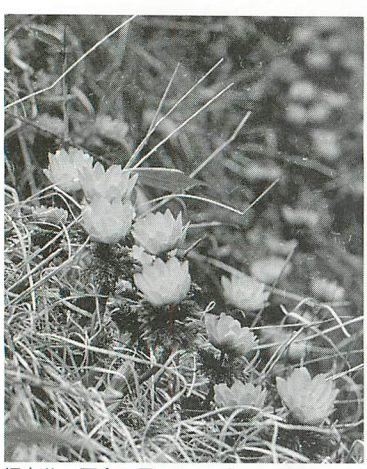
「一人では不安だけど、みんなでやると楽しいし、やりがいもある」と、メンバーの一人関根イツさん（69歳）は話す。

福寿草群生地が崩落「夢であれば…」

戸倉の里のシンボルである福寿草の群生地が、今年七月の集中豪雨で崩落してしまった。「ショックだった」というのは言うまでもない。早朝の発見だっただけに「夢であれば…と思いました」と幹事役を務める関根昭二さん（72歳）は話す。「いつまでも沈んではいられない」と、現在、地域の人たちが力を合わせ、その復旧作業に追われている。そして、「来年の福寿草まつりは、復元記念のまつりにしたい」と意気込む。また、「福寿草一株参加運動」として来場者に一株ずつ植えてもらい、今後の交流のきっかけづくりとして実施する計画もある。あくまで考えは前向きだ。



自然観察会の様子。子どもから高齢者まで世代を超えて活動する



福寿草は戸倉の里のシンボル



500人もの人出でにぎわう「魚つかみどり大会」

ふるさとの美しい自然を後世に伝えたい

平成九年度には、県の「ふるさと水と土保全モデル事業」の補助を受け、茅ぶき屋根の水車小屋や魚道のある親水公園なども整備され、里づくりにますます拍車がかかった。こうした活動が認められ、今年、県中山間ふるさと水と土保全基金運営委員会主催の「ふるさと水と土活動コンクール」で見事優秀賞を受賞した。

「地域というのは自らの手でつくるもの」。これは、地域の人たち共通の認識だ。そして、寄り合いの活動は「次代を担う子どもたちの舞台づくり」として、美しい自然を守り、後世に伝えるという目標もある。

一人ひとりが地域づくりに夢中なのだ。みんないきいきとしている。その表情からは、里づくりにかける情熱と、地域に対する自信と誇りが感じられた。

国蝶オオムラサキが飛び交う里に

■夢楽会議21


国蝶オオムラサキ

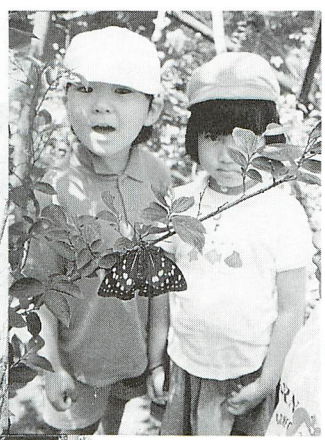
夢楽会議21は、村が若者を対象に開いた「村づくりおもしろ講座」の参加者が中心となって、平成三年に結成された。会の名称には「夢のある楽しい村に」という願いが込められている。現在のメンバーは二十歳代から五十歳代までの二十一人。会社員、農業、自営業、主婦、公務員など職業はさまざまだが、地域づくりに熱い思いを抱く人たちばかりだ。

＊

「ふるさとづくりは人づくり」を合い言葉に、これまでさまざまな活動を展開してきた。村内の若者が集い、これからの村づくりを提言する「若者交流会」、地域づくりのヒントを得るための「ふるさとづくり講演会」、自然観察やネイチャーゲームを楽しむ「親子自然教室」など。そして、活動の柱として取り組んでいる「国蝶オオムラサキの里づくり」は、今年で五年目を迎えた。

＊

日本の国蝶であるオオムラサキは、自然環境の変化とともに、その数がめっきり少なくなったといわれている。幼虫はエノキの葉を食べて成長し、成虫はナラやクヌギの樹液を吸う。そのエノキが伐採などにより減少していることから、エノキの植樹活動から始めた。村民に参加を呼びかけ、これまで六百本を超える苗木を植えた。また、昨年四月には村の協力を得て、山村開発センター入り口付近に観察用の飼育舎を設置。七月の羽化シーズンには連日多くの人が訪れ、その美しい姿を目の当たりにした。


観察用飼育舎には多くの子どもたちが訪れた


エノキの植樹活動に参加する子どもたち


「新たな活動を展開したいですね」と話す代表の関根政雄さん

「オオムラサキが生息するためには、エノキだけでなく雑木林もなければなりません。その自然環境は私たち人間にとっても重要であり、この活動は単に蝶を保護しようとするだけでなく、動植物が生息できる昔ながらの自然環境を残すことが大きなねらいであり、オオムラサキは里づくりのシンボルとしてとらえているんです」と、代表を務める関根政雄さん（43歳）。

これらの活動が実を結び、今年六月、「国蝶オオムラサキの里づくり推進会議「会長＝芳賀村長」」が発足した。オオムラサキの保護活動の先輩格である「戸倉の里づくり寄り合い」をはじめ、各学校長、区長、村内のさまざまな団体が加わり、村を挙げての活動に移行。五カ年計画で、本格的な里づくりが始まった。

＊

「村内には、年齢を問わず地域づくりに感心を持つ人がたくさんいると思います。今後は、地域づくりの輪を広げ、全村的なグループとして新たな活動を展開したいですね」とますます意欲的だ。

イルミネーションのように輝けふるさと

■遠ケ竜若衆会

「昔は中ノ沢集落にも青年団があって、盆踊りなどを開いてにぎわったんです。しかし、今は何もない…」。遠ケ竜若衆会が発足したのは平成九年八月。地域に活気を取り戻そうと地域の若者が立ち上がった。

「『若衆会』と言っても四十歳代の人が中心なんです。でも、気持ちは二十歳代のつもりですよ」。会長を務める森元良さん（47歳）は笑う。会は、遠ケ竜地区の後継者など二十人（男十二人、女八人）で構成する。

＊

発足後、初めての取り組みとして「魚つり・つかみどり大会」を催した。「私たちが子どものころは川で遊んだり、自然を相手に遊んだものです。しかし、子どもを取り巻く環境が変わり、自然と触れ合う機会が少なくなってきた。そこで、もっと自然に親しんでもらおうと企画したんです」。副会長の森康治さん（43歳）は話す。

次に、クリスマスイルミネーションの設置を企画した。「子どもたちに夢と希望を与え、心に残るイベントを」と考えた結果だ。「輝けふるさと」、そんな願いも込められている。山あいの小さな集落が、イルミネーションのように輝き始めた。

＊

遠ケ竜地区では、今年度から二カ年計画で、県の「ふるさと水と土ふれあい事業」の補助を受け、農村公園を整備する。

公園には、魚のつかみどりが楽しめる「ふれあい水路」のほか、水車小屋やあづま屋、広場などが設けられる。「公園を地域づくりの拠点に」と、ますます夢がふくらむ。

＊

「今、自分たちがしている活動が子どもたちの心に残り、やがては地域を盛り上げる人材に成長することを願っています。しかし、子どもたちに押しつけるわけではありません。自然な形でそうなってくれればいいですね」。

若衆会の活動は、まだ始まったばかり。今後の展開が楽しみだ。

取材に応じてくれた役員三人に、これからの目標を聞いてみた。「地道ではありますが、無理なく継続することが大切ですね。本当の意味で輝いている地域を目指して…」。



「魚つり・つかみどり大会」では、多くの子どもたちが自然に親しむ



子どもたちに夢を与えようと設置されたイルミネーション

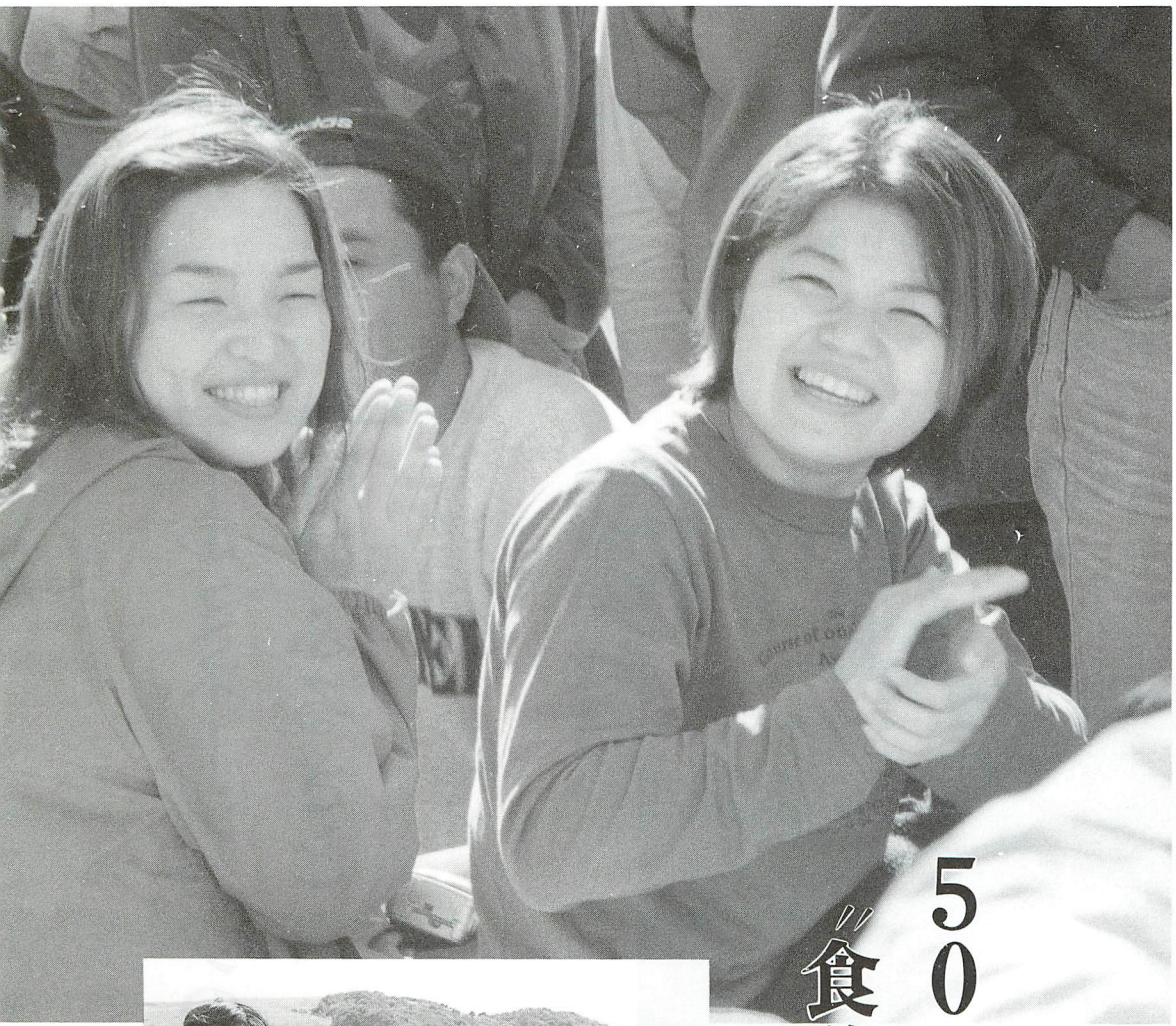


左から、庶務・会計の佐藤博さん、会長の森元良さん、副会長の森康治さん

カメラリポート

高原の鮫川うまいもの祭り

5000人が〝食欲の秋〟を満喫





秋の一大イベントとして定着した「高原の鮫川うまいもの祭り」は十月十七日、鹿角平観光牧場で開かれ、県内外から訪れた家族連れや職場のグループなど、約五千人の人出でにぎわいました。

同イベントは、村商工会など



司会進行を務めたラジオ福島の小川アナウンサー



勇壮な響きで来場者を魅了した奥州鮫川太鼓保存会による「源流太鼓」。祭りを一層盛り上げました。



人気を集めたキングレコードの三浦良太ライブショー。ファンに囲まれて熱唱する三浦さん(中央)。





さわやかな秋空の下、約5,000人が来場し、鮫川牛のバーベキューに舌鼓を打ちました。



「ザ・チャレンジ」で早食いに挑戦する参加者。時折、苦しそうな表情も…。

で組織する実行委員会の主催で、今年で十二回目。前日までぐずついた天気が続き心配されましたが、当日は朝は冷え込んだものの、日中はさわやかに晴れ上がり、絶好のバーベキュー日和となりました。

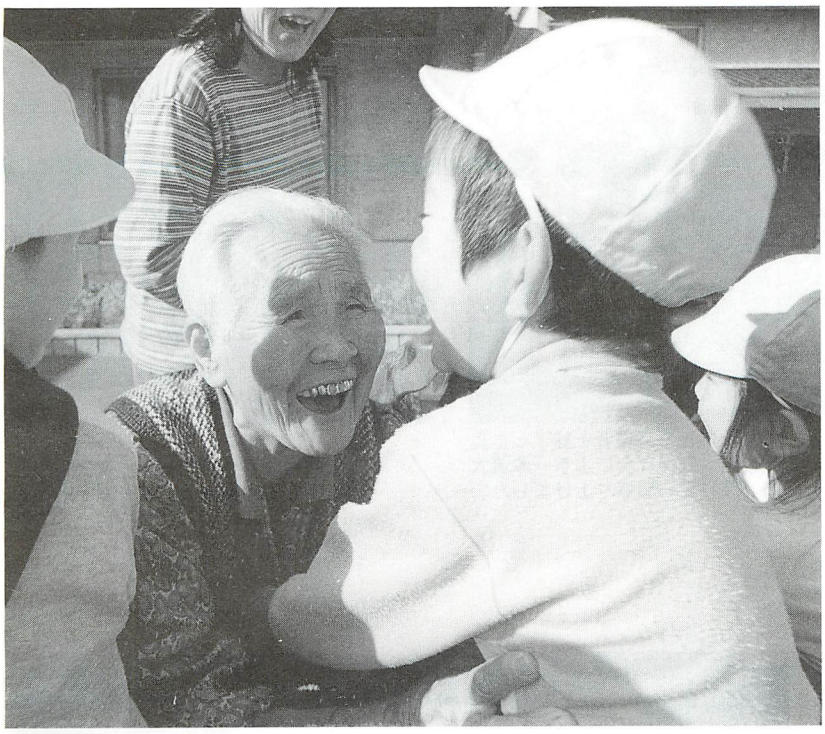
歓迎セレモニーでは、奥州鮫川太鼓保存会が「源流太鼓」を披露。勇壮な演奏が会場中に響きわたり、盛んな拍手が送られていました。続いて、矢吹廣信JA組合長、湯坐良政商工会長、芳賀村長が「今日一日、たっぷりと楽しんでください」などと歓迎のあいさつをしました。

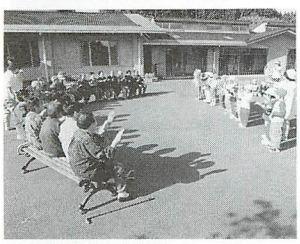
鮫川牛や盛りだくさんの野菜が詰まったバーベキューセットを受け取った参加者たちは早速、炭火と鉄板が用意されたバーベキューサークルを囲み、和気あいあいと「食欲の秋」を満喫していました。

また、キングレコードの三浦良太ミニライブや大声大会、早食いに挑戦する「ザ・チャレンジ」などさまざまなイベントが行われたほか、村内産の新鮮野菜の直売、地酒「やまぶき」や牛乳の試飲コーナーも設けられ、訪れた人たちは、思い思いに秋の一日を楽しんでいました。

むらのできごと

広報にあなたの写真が載りましたら、さしあげますのでご連絡ください。
（☎49－3111　内線214）


園児と一緒に手遊びを楽しむお年寄り


歌を披露する園児たち

園児とふれあい大喜び

幼稚園児が「ひだまり荘」を慰問

10月５日から29日にかけて、鮫川幼稚園の子どもたちが高齢者総合福祉センター「ひだまり荘」を慰問に訪れ、デイサービス利用のお年寄りとふれあいました。

デイサービス利用者が毎日異なることから、月曜日から金曜日まで５回に分けて実施。子どもたち全員で歌を披露したり、一緒に手遊びをしたりと、お年寄りを喜ばせていました。また、最終日の29日には、サツマイモ掘りを楽しみました。

未来博の成功を誓う

佐藤知事が意義をアピール

「うつくしま未来博」の成功を願う「東白川郡民の集い」は十月十三日、鹿角平観光牧場で開かれ、佐藤知事が未来博の意義をアピールしました。東白川町村会の主催で、郡内の未来博推進協議会員や関係者約四百人が出席。

未来博地域イベントディレクターの島田弘さんが未来博の概要を紹介したあと、佐藤知事が登壇しました。佐藤知事は、自然との共生を訴えていく内容であること、県民手づくりのイベントになることなど未来博の特徴を説明。また、大きな経済効果も見込めることなどを力強く話しました。

最後に、出席者を代表して村婦人会長の関根由美子さんが「私たちの郷土を全国にアピールできる絶好の機会。未来博成功に向け、力を尽くします」と決意を述べました。



未来博の意義を語る佐藤知事


ビッグアートをバックに行われた学級対抗合唱祭

みんなの心が１つになった

鮫川中で「壇の岡祭」を開催

「きらめく光のパノラマ～美しい一瞬を心の中に～」をテーマに、鮫川中学校の校内文化祭「壇の岡祭」が10月31日に開かれました。

今年は全校生221人のほか、保護者ら約100人が参加。開祭式のあと、各学級の代表による意見文発表会、全校生で描いたビッグアートをバックに学級対抗の合唱祭、「お昼の鉄人」と題した野外炊飯、バレーボール大会など、多彩な催しが行われました。また、美術、技術作品などが展示され、保護者の関心を集めていました。

閉祭式では、全校生でファイアーストームを囲み、みんなの心が１つになった祭典は、感動の中に幕を閉じました。

小学生がギター演奏楽しむ

県家庭劇場が山村開発センターで開催

県家庭劇場「ギターとパーカッションの演奏会」は十月八日、山村開発センターで開かれ、村内の小学生約三百七十人が生の音楽を楽しみました。

家庭劇場は、日本青少年文化センターと県の支援により毎年行われ、県内各地でコンサートや演劇を催しています。

今回出演したのは、国際ギターコンクールで優勝経験を持つ「ＧＳＮギタートリオ」とパーカッションのフランシス・シルヴァさん、オペラ歌手の嶋崎裕美さん。「アルハンブラ宮殿の思い出」や「ボレロ」などのほか、なじみのあるアニメ主題歌やディズニーメドレーも披露され、子どもたちは目を輝かせながら演奏に聞き入っていました。

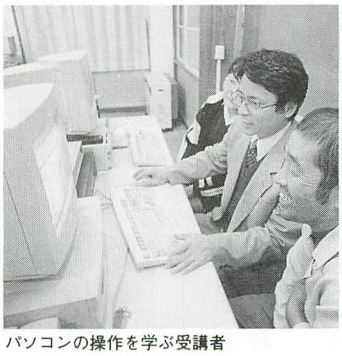

生の音楽を楽しんだ家庭劇場

村政とぴっくす・村政とぴっくす・村政とぴっくす・村政とぴっくす・村政とぴっくす・村政とぴっくす・村政とぴっくす・村政とぴっくす


レクリエーションを楽しむ参加者

リハビリ教室３町村交流会

郡内でリハビリ教室を開催している鮫川村、棚倉町、矢祭町の３町村交流会は11月４日、ほっとはうす・さめがわ体験館で開かれました。教室参加者とその家族ら約60人が参加。ミニ運動会やレクリエーションを通して交流を深めました。


パソコンの操作を学ぶ受講者

パソコン講座

公民館事業のパソコン講座は10月６日から26日まで合わせて６回、鮫川中学校で開かれました。講座には25人が参加。中学校の先生方の手ほどきを受けながら、基本操作や表計算、ホームページの作成など、パソコンの楽しさを学びました。

みんなのページ
PAGES FOR EVERYBODY

村民の皆さんが作るページです。
村づくりに関する意見、質問、提案(アイディア)
感激した話、ほほえましい話など……
ハガキや封書、ファックスでお寄せください。
ただし、中傷や営利を目的としたものは
ご遠慮ください。
「テーマにひとこと」も下記のあて先へ。

●

〒963-8401　大字赤坂中野字新宿39-5
鮫川村役場「広報さめがわ」みんなのページ行
☎49-3111（内線214）　FAX 49-2651

投稿

情熱あふれる青年教師に感激

私は、交通安全街頭指導に何度となく参加しているのですが、「秋の全国交通安全運動」期間中の街頭指導で、久しぶりに情熱あふれる先生と一緒になりました。児童の列がバラバラになっているのが見えるとそこまで出向き、一列に整然と並ばせている。「子どもたち、朝から怒られたら一日気分悪いだろうな」とひとこと言い終わるか否かに「でも、きちんと指導しなければいけないんです」と話す。また、中学生や通りがかりの村民に「おはようございます」と大きな声でさわやかにあいさつ。

今年四月に鮫川村に赴任されたという青年教師の情熱に感激し、今日一日頑張ろうと励まされた思いでした。

「とってもきれいな一列だよ。君たちの班が一番だ」と、ほめることも忘れない…。

（ペンネーム　舞乱姫）

誰が捨てるのかゴミ せっかくの景色が…

強滝周辺の紅葉が今年も鮮やかに色づき、ドライバーたちの目を楽しませてくれた。しかし、道端や川沿いには、空き缶や袋などのゴミが捨てられている。いったい誰が捨てるのか。道路沿いの空き地で昼食をとっている人を見かけるが、そのゴミを捨てていってしまうのだろうか。何度となく奉仕作業をしているようだが、それでもゴミを捨てる人がいる。これは、どうしようもないことなのか。残念…。

（鮫川を愛する住民）



金澤吉衛さん（前田）民謡で全国大会出場

大字赤坂西野字前田の金澤吉衛さんは、10月21日から24日まで日本武道館で開かれた「第39回郷土民謡民舞全国大会」に出場。「会津松坂」を熱唄し、グランプリ賞を受賞しました。

金澤さんは、郷土民謡協会福島地区連合会予選会で見事総合優勝を果たし、福島地区代表として出場したものです。

クイズ
ふるさと再発見



問題　右の写真は、大字赤坂東野字蕨ノ草地内の清流に架かっている長さ7・9メートル、幅4メートルの自然の大石橋で、新鮫川三十景にも選ばれています。さて問題です。この橋はなんと呼ばれているでしょうか？

ヒント　昔から、天狗の仕業による架橋と語り継がれています。

※正解は、来月号でお知らせします。

＊

▼先月号の正解…みなもん

み・ん・な・の

伝言板

■独身男女交流事業・クリスマスパーティー参加者募集

主催…県南地区青年交流実行委員会／**日時**…12月19日(日)18:00～（17:30受付開始）／**場所**…新富家（棚倉町）／**対象**…独身男女（女性は世界中のどなたでも。男性は鮫川村、棚倉町、浅川町、表郷村、東村の住民に限ります）／**参加費**…3,000円

詳細 県南地区青年交流実行委員会事務局（棚倉町役場商工観光課内、☎33－2111）または、実行委員・関根徳子（☎49－2489）

催し

■レニングラード国立歌劇場管弦楽団公演

日時…12月14日(火) 18:30開演／**場所**…棚倉町文化センター「倉美館」／**入場料**…大人＝4,000円、高校生以下＝3,000円（全席指定・税込み）

詳細 倉美館（☎33－9610）

■斉藤清 心のふるさと展

期間…平成12年１月23日(日)まで／**場所**…斉藤清美術館（柳津町）／**入場料**…一般＝500円、高校・大学生＝300円、小・中学生＝200円

詳細 斉藤清美術館（☎0241－42－3630）

■ポーランド・クラクフ国立博物館浮世絵名品展

期間…11月20日(土)～12月26日(日)／**場所**…郡山市立美術館／**入場料**…一般＝840円、高校・大学生＝530円、小・中学生＝200円

詳細 郡山市立美術館（☎024－956－2200）

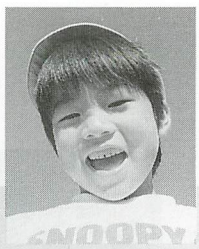
募集

どんぐり倶楽部員 …**活動内容**＝集められたどんぐりを、うつくしま未来博の会場地に植え付けるまでの活動（どんぐりの播種、播種した畑の除草などの管理、未来博会場への植え付け作業など）／**募集期間**＝随時／**詳細**＝どんぐり倶楽部事務局（すかがわ岩瀬農協大東支店内、☎0248－79－3111）

福島県勤労者文芸コンクール …**部門**＝詩、短歌、俳句、川柳／**応募締め切り**＝11月30日(火)／**詳細**＝福島県労政協会（県商工労働部労政課内、☎024－521－7296）

わが家の家計簿・生活設計体験談 …**募集期間**＝平成11年12月１日(水)～平成12年２月20日(日)／**詳細**＝貯蓄広報中央委員会（☎03－3279－1111）

地域の催しの案内、仲間づくりの呼びかけなど、掲載希望記事を募集します。総務課総務係(広報担当)までご連絡ください。


今月のスマイル

テーマにひとこと

今月のテーマ／私の趣味・生きがい

▼私の生きがいは、ずばり「仕事」。今年社会人デビューし、介護の仕事に就きました。こんな私も、最初は老人の体に触れるのさえ強い抵抗がありました。なぜ、こんな仕事に就いてしまったのだろうと後悔の毎日でした。しかし、人と接することが好きな私は、そんな気持ちもすぐになくなり、少しずつ仕事の面白さを見つけ、今では楽しく仕事をさせてもらっています。人にはよく「仕事大変でしょ」なんて聞かれますが、本当に大変です。でも、大変だからこそ、面白さや楽しさを知ったり、見つけたりして、この仕事をやりとげていくのだと思います。ときには私も誰かの役に立ったり、必要とされることもあります。何度となくくじけそうになりましたが、老人の「ありがとう」「気持ちよかった」という言葉、そしてこぼれんばかりの笑顔に何度支えられたか…。今、「仕事が楽しい」って思える自分が好きです。そんな自分を失わないでいたいなって思います。

（赤坂西野在住・女性・19歳）

▼文化祭には毎年、絵画、陶芸、写真などの作品がズラリと並び、感心させられます。私には趣味がない…。「暇がない」「お金がない」などと言って、結局あきらめてしまうのです。それではいけませんよね。

（匿名希望・男性）

▼私の趣味は盛りだくさん。器用貧乏なのです。公民館事業の趣味の講座にはほとんど参加します。老後にできる趣味を模索中なのです。編み物、パッチワークなどは生活に役立つし、絵は心をいやす。ガーデニングは人の心をも和ませてくれる。暇を見つける工夫をすることで、家事も効率的にこなすこともできる。のんべんだらりと生きるのは、生活に、自分の顔に張りがなくなる。だから、いつも何かをやろうと心がけています。

（ペンネーム 姥桜）

▼12月号のテーマ…1999年を振り返る
締め切り 11月30日(火)
◎ご意見お待ちしています。

む・し・ば・の・な・い・こ

10月12日の３歳児健診で、むし歯がなかったお子さんを紹介します。
受診児11人中４人(36%)


森 優一郎くん 赤坂東野字遠ケ竜


矢吹 京香ちゃん 赤坂西野字前田


生田目佳哉くん 西山字大久保


関根 崇文くん 西山字西野内

村民リレー

Vol. 19

岡部忠市 さん

Chuichi Okabe

大字渡瀬字青生野在住



PROFILE

おかべ・ちゅういち　昭和30年生まれ、44歳。農業経営（認定農業者）。忠市さん夫妻と子供４人、両親の８人家族。趣味は釣り。

ふる里を思う―。

秋も深まり、山々が赤や黄色に彩られる。私はいつもこの時期になると、幼いころ野山を駆け回って、アケビや山ブドウなどを採り歩いたことを思い出す。当時は、甘い物やスナック菓子などはあまりなく、山の産物は貴重なおやつであり、友達と先を争って採り合ったものだ。あれから三十数年、私の生まれ育った青生野もすっかり変わり、当時の姿を思い出せないほどである。

つい先日、農作業を終えて道を歩いていると、立派に色づいたアケビが、たわわに実っているのを見つけた。「いいものを見つけた」。そう思い、山に入り手当たりしだい実をもぎ取った。久々の大収穫である。そして、まだこんなにも素晴らしい自然が残されていることを誇りに思う。しかし、最近の山菜ブームのせいか、山が荒らされていることは誠に残念である。人の親となった今、子どもたちに少しでも多く、この自然を残してやりたいと思う今日このごろである。

■

次回は、岡部さんの紹介で増子三代さん（田中）の登場です。

俳句

秋立つや浜に残れる見張小屋　金沢　暁舟
坂道を登りて行けり風の死す　中井　恒峯
農秋の村辻神の言葉立つ　山本　朗史
広がる草原千草花盛り　斉須　信子
天高し子等の歓声野を走り　黒田　寿香
稲架けの束数ふえて竿延ばし　北條素人坂
晴天をのがすまいとて稲を扱く　小山田清哲
流れゆく川のゆく末思う秋　金沢三津子
荒畑にかわる時世や秋桜　前田　信子
長袖のしわ気にしつつ今朝の秋　矢部　正子
灯ともるや何時より消えし虫の声　山本五十鈴

短歌

国道も開かれてゆく過疎の村たった一つの信号機つく　北條　平
背表紙も破れ手垢の染む辞典定価二円が今も友なり　前田　栄美
腰痛を忘れて今日は夫として垂れ穂の稲田初刈りをする　鈴木　クニ
二日程会はざる歌友にしばらくと挨拶すれば嫁が笑いおり　岡部　シゲ
わが党の振興券は成果ありテレ

史・資料を探る

村史編さん室

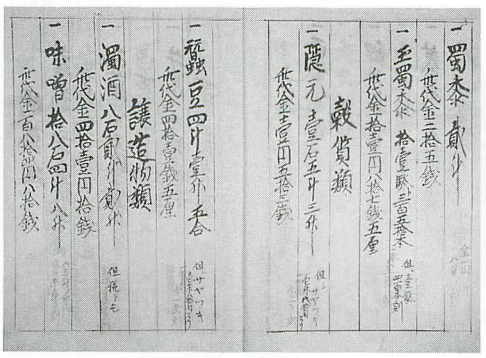
明治八年（一八七五）分　赤坂中野区有文書

赤坂中野物産取調帳（2）

粟、稗に続く物産書き上げは次のようになっています。

一、蕎麦（そば）七石七斗五升
　但シ金一円ニ付六斗ノ割
　此代金拾二円九拾壱銭六厘
　　六毛
一、蜀黍（もろこし）弐斗
　但シ金一円ニ付八斗ノ割
　此代金二拾五銭
一、玉蜀黍（とうもろこし）
　拾壱駄ト三百五拾本
　但シ壱駄四百本割
　壱駄金壱円ノ割
一、隠元（いんげん）
　壱石五斗三升
　但シサヤツキ壱升八拾目割
　　一升代金一銭ノ割
　此代金壱円五拾三銭
一、蚕豆（えんどう）
　四斗壱升五合
　但シサヤツキ壱升八拾目ノ割、一升代一銭割

ここまでが穀類書き上げです。



（承前）

前号、米について「金一円ニ付二斗六升わり」の付記により、今日と比べて一円の価値を想定すると、白米一升五百円として二斗六升相当額は一万三千円ということになります。明治の時代、百円たまると祝いをしたといわれますから、貨幣の価値がいかに高いものであったかが分かります。また、大麦一升は約二銭、小豆が一升約三銭、粟一升が一銭六厘となる勘定です。

米、大麦、小麦、大豆、小豆までが拾石以上で、それに次いで粟、稗、蕎麦と主食を補うものが主要作物でありました。大豆、小豆などは換金作物としても重視されたものと思われます。

醸造物類

一、濁酒八石弐斗弐升
　但シ糀トモ金一円ニ付弐升ノ割
　此代金四拾壱円拾銭
一、味噌拾八石四斗八升
　金一円ニ付壱斗ノ割
　此代金百八拾四円八拾銭

濁酒はいわゆる自家用酒で、醸造するには許可が必要でした。一円で二升とあります。味噌も自家製自家分であったでしょうが、壱斗で一円というのも今の私たちの感覚ではちょっと信じられないように思われます。この時点では、醤油、酢などは赤坂中野村においては醸造が行われていなかったようです。

地域のスポーツ施設を活用しよう　…の巻

村内には、体力づくりや生涯スポーツを楽しむために利用できる公共施設がたくさんあることをご存じでしょうか。今回は、主に屋内の施設を中心に紹介します。

小学校体育館（鮫小を除く）

学校教育の施設が、村民のスポーツ振興のために利用することができます。現在は、バレーボール愛好会などの団体の利用が多いようですが、それ以外のスポーツにも工夫次第で多目的に利用できることでしょう。学校教育の施設も地域住民の公共財産として大いに活用してはいかがでしょうか。

農業者トレーニングセンター

生涯スポーツ振興の発信基地として、現在最も利用頻度の高いおなじみのスポーツ施設です。アリーナでは、主にバレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球などのほか、多目的に利用できます。また、トレーニングルームには、筋力トレーニング器具が数点備えてあります。さらに「グランド・ゴルフ」や「インディアカ」「ターゲット・バード・ゴルフ」などのニュースポーツの用具も備えてあり、貸し出しも行っていますので、ぜひご利用ください。

青少年広場テニスコート

今年の8月に本村で開催された「県民スポーツ大会」をきっかけにきれいに整備されました。ナイター施設もあり、土のコート2面で、ソフトテニス、硬式テニスのどちらでも利用できます。

＊

いずれの施設も、利用するには若干の手続きが必要ですが、家族や仲間が集まったら、気軽に利用してはいかがでしょうか。

スポーツに関する相談
生涯学習課社会体育係
（農業者トレーニングセンター内）
☎／FAX　49-3295

生涯スポーツ情報　その9

ビの議員に苦笑いする　関根　一好
豊作のその喜びも束の間か米価値下げと減反が待つ　水野　フク
山峡の闇をつんざき花火はず年に一度の盆の夜空に　須藤美代子
小和清水式部の産湯にせしという水滔々として弾くがに出づ　坂本　雪絵
内職の忙しき中に詠みし歌すぐに忘れて覚つかぬなり　坂本　伊紀
引くもよし引かぬもよろし雑草もそれなりの花つけて匂えば　松崎　光
一円かと嗤う曾孫に言い聞かす一億も先ず一円からと　緑川　理羽
小さくも孫の当てたる宝くじその嵩越して亦買うという　関根　美津
一世紀過ぐるも磐梯の火口には大爆発が聞こゆる如し　驚野谷　満
如露の水注ぐあしたを日の差してほのと浮くなり小さき虹の　青戸　照子
香を焚く煙のかげにほほえみて遺影となりし妹が顕つ　中川西　肇
汚濁なる世を映してか川水も澄まざる村に今日も生きつぐ　須藤　重晴
平和の夢いつまでつづく世は既に世紀末という声も聞かれて　赤坂　朝子
寺庭に咲ける小さき蒲公英は日本種という慈しみおり　菊地倭文絵

イルミネーションを設置
サクラ2本に2400個

商工会青年部設立30周年記念事業

THE 30TH ANNIVERSARY

今年で設立三十周年目を迎えた村商工会青年部（須藤功部長）では、記念事業の一環としてイルミネーション（電飾）を設置しました。

山村開発センター駐車場わきのサクラの木二本に、二千四百個の電球を散りばめたほか、同センター入り口付近のケヤキの大木を照らし出すライトも設置。

イルミネーションの点灯式は十一月七日、商工会館わきの駐車場で行われ、商工会関係者ら約十人が出席しました。式では、二十発の花火とともに須藤部長、湯坐良政商工会長、芳賀村長の三人がスイッチを押し点灯させると、出席者から大きな歓声が上がりました。

イルミネーションは来年二月十五日までの期間、午後五時から九時まで点灯されます。また、クリスマスと年末年始には深夜までの点灯を予定しています。

心に残る企画を考えました



商工会青年部長
須藤功さん

商工会青年部は、昭和四十五年の設立以降、皆様に支えられながら、お陰様で三十周年を迎えることができました。その記念事業の一環として、青年部員一同、皆さんの心に残る企画をと考え、イルミネーションを設置しました。このイルミネーションのように、鮫川村の未来が輝くことを願って…。



幻想的な雰囲気を醸し出すイルミネーションとケヤキのライトアップ

特集事後レポート

お嫁さんの実家を訪問
ハルさんとの面会を喜ぶシゲさん

■平成11年9月号――「変わる在宅医療」のその後

九月号の特集「変わる在宅医療」では、二人の在宅高齢者の協力を得て、村国民健康保険診療所で行っている在宅医療の取り組みについて紹介した。

寝たきり生活を送っていた堀川廣二さん（大字渡瀬字青生野在住）は、診療所の石津医師の指導で十四年ぶりに外出し、感激の涙を流した。その後も、車イス同乗自動車で鹿角平までのドライブを楽しんでいる。

蛭田シゲさん（大字渡瀬字田苗下在住）は引き続き、診療所の訪問診療を受けながら、村高齢者総合福祉センター「ひだまり荘」のデイサービス（日帰り介護）、ショートステイ（短期入所生活介護）、ホームヘルプサービス（訪問介護）を上手に利用し、より快適に生活を送っている。

シゲさんはその後、石津医師らとともに、車イス同乗自動車で大字赤坂西野字岡田在住の舟木ハルさん（八八）の自宅を約五年ぶりに訪ねた。舟木さん宅は、シゲさんの長男・晃さんの妻・久子さんの実家。ハルさんは久子さんの母親である。ハルさんもまた、車イスでの生活を送っている。そのためか、ここ数年、顔を合わせる機会がなかった。久しぶりのハルさんとの面会に、顔をほころばすシゲさん。口数こそ少ないが、お互いの体を気遣い、励まし合っていた。

「『寝たきり老人』は『病人』ではない。たとえ寝たきりでも外国にだって行けるんです。だから、できる限り外出させることが大切」と石津医師は話す。




舟木ハルさん（右）を訪ね、大喜びのシゲさん


車イス同乗自動車に乗るシゲさん

いきいき生活、応援します。

く・ら・し・の

情報

Information

電話番号
Telepone

鮫川村役場	☎ 49-3111(代)
	FAX 49-2651
教育委員会	
学校教育課	☎ 49-3151
生涯学習課	☎ 49-2247
歴史民俗資料館	☎ 49-3106
農業者トレーニングセンター	☎ 49-3295
交流施設　ほっとはうす・さめがわ	☎ 48-2555
国保診療所	☎ 49-2028
高齢者総合福祉センター　ひだまり荘	☎ 49-3600
村民保養施設　さぎり荘	☎ 49-2205

募集

写真展さめがわの点描「親と子のふれあい」作品

応募資格　鮫川村民、鮫川村出身者、鮫川村内勤務者
作品　カラープリント4ツ切サイズの1枚写真で、1人3点まで
応募締め切り　平成12年10月(平成12年9月に応募用紙を配布)
応募上の注意　①鮫川村民が被写体に入ること／②応募者本人(職業写真家は除く)が撮影したもので未発表の作品／③被写体の方の承諾を得ること
賞　最優秀賞1点、優秀賞2点、入選数点
詳細　企画調整課商工観光係(☎内線221)

広報さめがわ新年号「村長への手紙」

「広報さめがわ」平成12年1月号(新年号)では、「村長への手紙」と題し、皆さんから村長に宛てた手紙を募集します。
募集内容　村づくりに関する提案、あなたが描く鮫川村の将来像など、村長宛てのメッセージ
募集期間　12月10日(金)までに広報担当へご連絡ください。
注意　紙上匿名不可(住所・氏名・年齢・写真を掲載します)。前向きな内容とし、中傷を目的としたものはご遠慮ください。
詳細　総務課総務係(内線214)

鮫川村史資料叢書Ⅰ発刊

鮫川村史資料叢書Ⅰ・村内諸家文書目録(上・中・下)を発刊しました。購入希望者は、早めに申し込んでください。

■**頒布価格**　各700円



申し込み・問い合わせ
村史編さん室　☎49-3106
(村歴史民俗資料館内)

窓口

印鑑登録証の交換手続きはお早めに

10月号でお知らせしたとおり、印鑑登録済証は、11月1日からカード形態の印鑑登録証に変わりました。まだ交換が済んでいない人は、お早めに手続きしてください。
交換に必要なもの　印鑑、古い印鑑登録済証(粉失などにより持参できない場合…①本人が交換するとき＝運転免許証、パスポートなど、本人と確認できる書類を持参してください／②代理人が交換するとき＝委任状が必要になります)
　印鑑登録証は大切なものですので、交換にはできるだけ本人がおいでください。やむを得ず代理人に委任するときは、印鑑登録証は代理人に渡すことになりますので、ご承知ください。
詳細　住民課福祉係(☎内線232)

12月31日現在で、製造事業所を対象に次の統計調査が同時に行われます。

■**平成11年石油等消費構造統計調査**…従業員30人以上の製造事業所の石油などの消費実態を調査

今年12月から来年1月にかけて調査員がお伺いします。調査票に記入していただいた内容については、統計法に基づき秘密が厳守されますので、数字などの正確な記入をお願いします。

■**平成11年工業統計調査**…製造事業所の実態を調査

●

問い合わせ／企画調整課（内線222）

●

工業統計調査
石油等消費構造統計調査

12月から調査員が訪問

募集

自衛隊生徒（中卒）

- **対象**／中学校卒業（見込み者を含む）17歳未満の男子
- **受付期間**／平成11年11月4日～平成12年1月4日
- **試験日**／第1次＝平成12年1月5日、第2次＝平成12年1月22～26日
- **入校**／平成12年3月下旬
- **修学年限**／4年（卒業時3等陸・海・空曹）

問い合わせ
自衛隊白河募集事務所
（☎0248－24－0372）

ご声援をお願いします

第10回鮫川村民駅伝競走大会

村体育協会主催の「第10回鮫川村民駅伝競走大会」が11月28日（日）に開かれます。青生野小学校をスタート、役場前をゴールとする15区間、31.0キロ（メートル）のコースでタスキをつなぎます。皆さんの温かいご声援をお願いします。また、大会のスムーズな運営のため路上駐車などをしないようご協力をお願いします。

通過予定時刻	中継所
10:00	青生野小学校（スタート）
10:08	世々麦公民館
10:16	鹿角平観光牧場売店
10:27	関下地内
10:35	渡瀬保育所
10:42	福原集会所
10:52	二反田地内中沢入口
11:02	前沼地内
11:10	農業者トレーニングセンター
11:14	官沢入口
11:22	鍛治平地内
11:32	西山小学校前
11:40	宝木～折戸中間付近
11:50	赤坂西野区民センター
11:58	上大塩見渡線入口
12:08	役場前（ゴール）

◎問い合わせ
生涯学習課社会体育係
☎／FAX 49－3295

税金

サラリーマンの年末調整

年末調整は、毎月の給料やボーナスから差し引かれた所得税の額と、1年間の給与総額に対する年税額との差額を精算するもので、サラリーマンにとっては確定申告に代わる大事な手続きです。

次に該当する人は、勤務先に「控除申告書」を提出してください。

▼扶養親族に異動があった人
▼各種保険料の控除を受ける人
▼配偶者特別控除を受ける人
▼年の途中で給与の額に変更がある人

なお、平成11年分の所得税については、所得税額からその税額の20％相当額（最高25万円）が控除される定率減税が実施されています。

詳細　白河税務署（☎0248－22－7111）

11月30日は個人事業税の納期限です

個人事業税は、県内に事業所・事務所を設けて販売業や不動産貸付業、請負業など一定の事業を営んでいる事業者に納めていただく税金です。

11月は、個人事業税第2期分の納税通知書が郵送されますので、11月30日（火）までに納入してください（年税額が1万円未満の場合、2期分は通知されません）。

なお、口座振替利用者は残高確認をお願いします。

詳細　県南地方振興局県税部課税課直税係（☎0248－23－1514または1517）

村税完納推進月間

本村では昨年度、村民の皆様のご理解とご協力により、村税完納継続42年を達成しました。

この実績をさらに伸ばし、住みよい村をつくるため、12月1日から20日までを「村税完納推進月間」として村税の完納運動を展開しますので、ご協力をお願いします。

詳細　総務課税務係（☎内線217）

人事

教育委員に遠藤幹雄さん再任

村教育委員会委員の任期満了に伴い、遠藤幹雄さん（大字渡瀬字木之根）が村議会の同意を得て、10月1日付で再任されました。

また、同日付で委員長に遠藤幹雄さん、委員長職務代理に阿久津文男さんが再選されました。

介護保険

認定申請を受け付けています

先にお知らせしたとおり、10月1日から、介護保険の「要介護認定申請」を受け付けています。介護保険の給付を受けるには「要介護」あるいは「要支援」という認定を受けなければなりません。

介護保険給付対象者

▼65歳以上（第1号被保険者）…常に介護を必要とする状態（要介護状態）や、日常生活に支援が必要な状態（要支援状態）になった場合／**▼40歳以上64歳未満（第2号被保険者）**…初老期の痴呆、脳血管疾患など、老化が原因の病気により要介護状態や要支援状態になった場合

要介護度のめやす

要介護度には、要支援と要介護度1から5まであり、状態別に区分されます（別表参照）。

申請の仕方

▼本人または家族が申請…本人または家族が、役場福祉係に申請してください。／**▼代理人が申請**…県指定の居宅介護支援事業者（訪問看護ステーション、老人保健施設など）に申請を代行してもらうこともできます。

※原則として、申請から30日以内に認定結果を通知します。

介護保険の主なサービス

▼在宅サービスの例…訪問介護（ホームヘルプサービス）、通所介護（デイサービス）、訪問看護、短期入所サービス（ショートステイ）、訪問入浴、福祉用品の貸与とその購入費の支給、住宅改修費の支給、ケアプラン（介護サービス計画）の作成／**▼施設サービスの例（要介護者のみ）**…特別養護老人ホーム、老人保健施設、療養型病床群などの介護体制の整った医療施設

詳細 住民課福祉係（☎内線230）

■要介護度のめやす

要支援	残存機能を向上させたり、失われた能力を取り戻すような支援が必要…月額6万円程度のサービス
要介護度1	排せつ、入浴、清潔・整容、衣服の着脱などに一部介助が必要…月額17万円程度のサービス
要介護度2	排せつ、入浴、清潔・整容などに一部または全介助が必要…月額20万円程度のサービス
要介護度3	排せつ、入浴の全介助のほか、清潔・整容、衣服の着脱などに全介助が必要…月額26万円程度のサービス
要介護度4	排せつ、入浴、衣服の着脱、清潔・整容などの全般に全面的な介助が必要…月額31万円程度のサービス
要介護度5	日常生活を送るのに、全般にわたって全面的な介護が必要…月額35万円程度のサービス

注：要介護認定は、原則6カ月ごとに見直されます。

国民年金

保険料の時効

国民年金保険料は、2年を経過した翌月で時効となり納められなくなります。さかのぼって加入した場合、平成11年11月現在で納付できるのは平成9年10月分からで、それ以前の分は未納期間として残ってしまいます。

老齢基礎年金は、20歳から60歳になるまで、すべての保険料を納めて満額になり、未納期間がある場合は減額されてしまいます。なお、60歳時点で未納がある人は、満額に近づけるために65歳まで任意加入して納めることができます。

詳細 住民課福祉係（☎内線234）

献血

あなたの愛をありがとう

10月8日（金）、献血車が来村し、次の方々からご協力いただきました。ありがとうございました。（50音順・敬称略）

＊

200mℓ 青砥ハツ子（塙町）石井正子（虹ケ沢）歌川直人（戸草）大橋里美（前沼）大橋ひろみ（古殿町）岡部妙子（青生野）岡部千鶴（大竹）岡部憲勝（大竹）小野寺元樹（戸草）加藤達也（石川町）木之内栄子（下）木村恵子（戸草）久保木和彦（古殿町）鈴木憲子（矢吹町）鈴木眞理子（大塩）須藤カヨ（後田中）須藤ヨシ子（岩野草）戸村有紀子（鍬木田）中沢俊文（戸草）平松康顕（戸草）矢吹かおり（岨長）

400mℓ 石井豊（酒垂）金澤広一（大塩）木之内満男（下）小松次男（大戸中）近藤保弘（新宿）高坂正紀（西）津田彰夫（木之根）圓井正男（取上）芳賀厚子（渡瀬・上）矢吹照子（塩倉）

成分 金澤喜美子（浅川町）木之内まゆみ（下）斎須寛一（新宿）鷺野谷弘行（二反田）生田目京子（辺栗）芳賀真一（福原）蛭田啓喜（福原）矢吹智広（塩倉）

相談

■心配ごと相談
日時…12月20日（月）午前10時～午後3時（午後1時からは弁護士が相談を受けます）／**場所**…山村開発センター
詳細 村社会福祉協議会（☎49-3600）

■身体障害者巡回相談
日時…11月30日（火）午後1時～3時30分／**場所**…サンフレッシュ白河（白河市）／**対象**…肢体不自由者／相談希望者は住民課福祉係に事前連絡が必要です。
詳細 住民課福祉係（☎内線233）

納付

▼固定資産税 4期分
▼国民健康保険税 6期分
▼国民年金保険料 11月分
◎納期限 11月25日（木）
※納期内に納めましょう。口座振替の方は残高確認を

寄付

（敬称略）
▼社会福祉事業のために（金員）…小田川利廣（郡山市）蛭田春光（内ケ竜）芳賀芳弥（草木）舟木寿郎（寅卯平）矢吹智広（塩倉）／**▼ひだまり荘・さぎり荘に**（おしぼり・ぞうきん各50枚）…野島守男（広畑）／**▼社会福祉協議会に**（電動ベッド）…舟木寿郎（寅卯平）

■特定事業者の皆さんへ 地域振興券換金の最終請求日は12月6日（月）です。

休日当番医

11月21日（日）	
大木医院（棚倉町）	☎33－2424
石川医院（塙町）	☎43－0003
中島病院（石川町）	☎26－3415
11月23日（火）	
東白川中央病院（棚倉町）	☎33－3263
木村医院（矢祭町）	☎46－3528
大野病院（石川町）	☎26－1181
11月28日（日）	
藤田医院（棚倉町）	☎33－2013
車田病院（塙町）	☎43－1019
石川中央医院（石川町）	☎26－2024
12月５日（日）	
あらまちクリニック（棚倉町）	☎33－8018
塙厚生病院（塙町）	☎43－1145
おりの整形外科クリニック（石川町）	☎26－5050
12月12日（日）	
緑が丘診療所（棚倉町）	☎33－9468
金沢医院（矢祭町）	☎46－2312
田中内科医院（石川町）	☎26－3333
12月19日（日）	
杉山胃腸科外科皮膚科（棚倉町）	☎33－7551
東舘診療所（矢祭町）	☎46－3165
中島病院（石川町）	☎26－3415
12月23日（木）	
和田医院（棚倉町）	☎33－2012
中島医院（塙町）	☎43－0373
大野病院（石川町）	☎26－1181

ごみ収集日

— 12月 —

■江竜田～中野町～福原～鍬木田～広畑～新宿～道少田～大塩
- 可燃物…2.6.9.13.16.20.27.29
- 不燃物…3.17

■さぎり荘～村営住宅赤坂中野団地
- 可燃物…2.6.9.13.16.20.27
- 不燃物…1.15

■東白農商鮫川分校～鮫川中学校
- 可燃物…2.6.9.13.16.20.27
- 不燃物…2.16

■関下～越虫～青生野小～世々麦～葉貫～蕨ノ草～中沢～関口
- 可燃物…1.8.15.22.29
- 不燃物…1.15

■真坂～押目～酒垂～塚本～荻ノ沢～折戸～水口～官沢
- 可燃物…1.8.15.22.29
- 不燃物…2.16

■官代～遠ケ竜～大石草～大根屋敷～内ケ竜
- 可燃物…1.8.15.22.29
- 不燃物…3.17

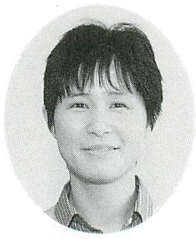
■石井草～大久保～鬼越～赤柴～沼野沢～岩野草～薄ケ久保
- 可燃物…1.8.15.22.29
- 不燃物…24

※ペットボトルは、可燃物と同じ日に収集します。

こんにちは保健婦です

ボランティアって？

（シリーズ２／どんな活動があるのかな）



村山通子 保健婦

一口に「ボランティア」といっても、いろんな活動（種類）があります。今回は、身近なボランティア活動と、その相談窓口について紹介します。

＊

地域をつくるボランティア

▼むらづくり…村企画調整課企画振興係（☎内線２２１）▼地域の安全を守る（交通安全）…村総務課総務係（☎内線２１１）

地域福祉のボランティア

▼高齢者とふれあうボランティア…村社会福祉協議会（☎４９－３６００）▼障害者とふれあうボランティア…①視覚障害者の外出付き添い＝県ガイドセンター（☎０２４－５２３－４０８０）②赤い羽根共同募金＝村社会福祉協議会（☎４９－３６００）

健康づくり・医療のボランティア

▼献血…県赤十字血液センター（☎０２４－５４４－２５５３）、村住民課保健係（内線２３５）▼骨髄バンクへの登録…県南保健所（☎０２４８－２２－５４４１）▼精神保健福祉ボランティア…県南保健所棚倉支所（☎３３－２２４１）

環境を守るボランティア

▼こどもエコクラブ…県南保健所（☎０２４８－２２－５４４１）▼緑の募金、緑の少年団…村農林課林業係（☎内線２４１）

文化や人を育てるボランティア

▼文化の継承活動など…村教育委員会生涯学習課（☎４９－２２４７）

国際交流・協力ボランティア

▼青年海外協力隊…県庁国際課（☎０２４－５２１－７１８３）▼ユニセフ募金（子どもたちの生存、発達、福祉の向上が目的）…日本ユニセフ協会（☎０３－３３５５－３２２２）

このほかに、「災害救援・防災のボランティア」やベルマーク収集などのボランティアがあります。

もっとボランティア活動の情報を知りたいときは、村企画調整課企画振興係（☎内線２２１）または村社会福祉協議会（☎４９－３６００）にお問い合わせください。



今月の表紙

西山字戸倉地区にある「来る来る水車小屋」で、囲炉裏を囲み、和やかに懇談する「戸倉の里づくり寄り合い」の皆さん。「もっと地域を良くしたい」と夢を語り合っています。

お誕生

10月届け出分



石井美紀（みき）
平11.9.27生
住所／大　沢
保護者／明光



北條太喜（だいき）
平11.9.27生
住所／押　目
保護者／喜浩

おくやみ

10月届け出分

住所	氏名	月日	年齢
内ケ竜	蛭田　一二	10. 2	66歳
反　田	小田川利雄	10. 2	75歳
草　木	芳賀チヨノ	10.12	89歳
寅卯平	舟木トミエ	10.16	78歳
塩　倉	矢吹　賢市	10.28	46歳

※お誕生・おくやみのコーナーへの掲載を希望されない方は、届け出の際に申し出てください。

人の動き

10月1日現在・（　）は前月比

人口	4,855人	（－6）
男	2,412人	（－5）
女	2,443人	（－1）
世帯	1,114戸	（＋1）

広報さめがわ
平成11年11月号（通巻550号）
■
発行・編集／鮫川村役場総務課
〒963-8401　福島県東白川郡鮫川村
大字赤坂中野字新宿39-5
☎(0247)49-3111　ＦＡＸ(0247)49-2651
印刷／佐藤印刷所（塙町）

セピア色の思い出⑧



昭和43年９月

敬老会慰安演芸出演記念

提供／関根ミツエさん（大字西山字大平・71歳）

昭和43年９月、村敬老会慰安演芸の出演記念に、村婦人会西山分会のメンバーらと撮影した１枚。当時の敬老会は、婦人会の各分会が舞踊などを披露し敬老を祝った。そのため、連日集会所に集まって夜遅くまで練習した。そのかいあってか、敬老会は大いに盛り上がり、会場中に拍手と歓声が鳴り響いた。また、敬老会終了後の反省会も楽しく盛大に開き、時間を忘れて語り合ったことなど、婦人会活動での思い出は尽きない。　（関根）

編集後記

▼今月は、さまざまな角度から鮫川村の魅力に迫ってみた。普段、何げなく生活している中で、気づかない部分がたくさんあった。今回の取材を通して、以前にも増してこの村が好きになった。▼ライフスタイルにこだわって日々の暮らしを楽しんでいる人たち。鮫川村に特別な思いを抱く人たち。地域づくりに情熱を傾ける人たち。みんないきいきとしている。この村で、みんな一生懸命に生きている。いろんな人がいて、この村がある。だから、鮫川村が心から好きだ。　（舟木）